

一般社団法人ふくおかFUN

水中クレンジングアップ事業

2019年エフコープ環境助成金 報告

事業の背景

全世界の「海ごみ」は、その総量が1億5000万トンを超え、年々増え続けていると推測されている。また、現在世界的に注目が集まっている「プラスチックごみ」も2050年に魚類の総量を上回るとも言われており、国内外ではSDGsを通じて2030年に向けて様々な取り組みが見直されているところである。

こうした海洋環境の課題は、福岡の海においても例外ではなく、**河川からの生活ごみの流入により海底には多くのごみが堆積している**現状があるため、海中及び海岸のクリーンアップを目的とする本事業を行った。



事業内容

ダイバー×市民による博多湾の海中クリーンアップ

- ダイバーが実際に福岡の海（地行浜、新宮海岸、能古島、福浜）に沈んでいる海底ごみの引き上げ及び回収を行った。
- 海底から引き上げた水中ごみの写真や分類等の情報については、環境啓発素材として活用した。
- 2019年10月、福岡市中央区福浜海岸において、市民とダイバーが一体となって海中及び海岸の同時清掃活動を行うイベントを開催し、200名を超える参加者が集まった。



海底ごみの回収



実施回数 : 合計6回 (海底ごみ回収・引き上げ6回)
実施場所 : 地行浜、新宮海岸、能古島、福浜



海底ごみの現状



ダイバー×市民による 海中海岸同時クリーンアップ

参加人数 : 合計201名



ダイバー×市民による 海中海岸同時クリーンアップ



昼食は、博多湾で獲れた新鮮な海鮮を使ったオリジナルスパイスカレーをふるまった。
※その他の食材はエフコープ様よりご提供いただいた。



清掃後、きれいになった海岸から、海を豊かにする海草「アマモ」の種子団子を参加者が投げ入れる様子。

事業の効果

地域、行政、漁業者との間に生まれた新たな繋がり

- 福岡の海に堆積する海底ごみを実際に減らすことができた。
- 複数の海域において回収・引き上げ作業を行うことで、それぞれの地域や行政、漁業者、市民との連携が生まれた。
- 引き上げた水中ごみの写真及び映像や分類等の情報をまとめることで、効果の高い環境啓発素材として活用することができた。
- ダイバーと市民が同時に海のクリーンアップに取り組むことで、普段は目に見えない水中の現状についても伝わりやすくなり、参加者の環境意識の醸成に繋がった。



今後の展開

私たち一人一人の関心と行動が福岡の海を救う

- 福岡の海に堆積する海底ごみの総量を減らしていくためには、改めて、地域住民一人一人の意識改善、行動が必要不可欠。
- ごみを減らす「リデュース」についての啓発活動について、今後も授業や講演、体験型のイベントの開催等といった様々な形で進めていきたい。
- 海の現状を広い世代に啓発していくためには、より事実に近い情報や、他地域との比較を用いながら「誰の目にもわかりやすい」形で伝えていく。
- 今後さらに多くの水中の情報を調査・集約するとともに、他市区町村との連携を深めていきたい。